

『多くの人々が救われていくために』

●本日の聖書箇所 ・使徒 6:1～7（新改訳第3版）

6:1 そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。6:2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。6:4 そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」6:5 この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。6:7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

●本日の説教のポイント

多くの人々が救われる為に、聖霊に助けられて“私”に委ねられた務めを果たそう

聖霊が注がれて、力を受けた弟子達の言葉と奇跡を通して、多くの人々が主イエスを信じて教会に加えられていった。その際、中心的な役割を担ったのは、ペテロ、ヨハネといった12弟子であった。彼らは“使徒”という務め・役割(今でいうなら牧師)が与えられていた。ペテロ達は、祈りと御言葉の働き以外にも、食事の配給など教会の様々な働きのリーダーシップを担っていた。

しかし、多くの人々が救われてくると、ペテロ達だけのリーダーシップでは対処できなくなった。そこで、ステパノ達(今でいう役員、信徒リーダー

達)に食事の配給等のリーダーシップをまかせて、自らは使徒(牧師)として、祈りと御言葉の奉仕に専念するようになった。その結果、非常に多くの人々が救われ、ついには主イエス様に対して最も反対していた祭司たちまでもが信じるようになった事が記されている。

祈りと御言葉と言ういわゆる宣教の働きも、食事の配給等といった愛の奉仕活動も、どちらもとても大切な働きである。主イエス様ご自身も、宣教の働きだけでなく、病気の人々や、社会的に弱い立場の人々にいつも心を配られていた。又、ある時には、5つのパンと2匹の魚で5千人の人々に食事を分け与えられた。

宣教の働きも、愛の奉仕活動も、どちらも牧師たちだけ、また一部の人たちだけで担う事はできない。聖霊様の助けを受けて一人一人が立ち上がる時に、この大切な働きは前進していくのである。新約聖書は、この事を繰り返し強調している。

聖霊様が臨まれたのは、ペテロやヨハネだけでなく120人の者が一緒に祈っていたところであった。(使徒 1:14、15、2:1～4) また、同じ日に、3000人が救われた時、御言葉を語ったのはペテロだったが、他の11人の弟子達も一緒に立ちあがった事が記されている。(使徒 2:14)

大群衆を前に神の言葉を語る働きも、家の中で祈る働きも、喜んで捧げる働きも、愛と宣教の為になされる一人一人の全ての働きを通して聖霊様が働いて、一人また一人と救われ、やがて大勢の人が救われていくのである。

私達は、聖霊様に助けられて、自らに委ねられた大切な務めを今日も精一杯なす者となろう。

●心に残った事、決心した事
